

高校生の協力を得て行った幼稚園での花育活動

作成者：有限会社千寿園 代表 千葉 道代

■ 実施主体

名称：有限会社千寿園

担当窓口：千葉 道代

所在地：静岡県静岡市



- ## ■ 取組地域
- 静岡県内の幼稚園、小学校～高校など
学校法人第三静岡学園 静岡学園幼稚園
静岡県立清水特別支援学校高等部

■ 概要

静岡市の高校生（清水特別支援学校高等部1年生、2年生）が、作業実習時間を利用して花育資材準備作業を行い、その資材を活用して静岡市内の幼稚園児がフラワーアレンジメント作りを実施した。

■ 取組開始時期・経緯

6年前から株式会社するが花き卸売市場が主催する花育活動を弊社が依頼をうけて指導を行っている。静岡県立清水特別支援学校中学部で、3年間継続して指導を行ってきた生徒達が、中学校を卒業後に同敷地内の高等部に進学したことから、高等部の作業実習の中で幼稚園での花育で使用する資材作りを依頼し実現に至った。幼稚園での花育を高校生の協力を得て行うことは、今年で3回目となった。

■ 目的（目標）

花育に携わる人の輪をつくり、その輪を大きくしていく

1. 園や学校の指導者に花育活動の主旨を伝え、日々実践してもらう
2. 花育の授業を受講した生徒が、後々別の形で花育に携われる機会をつくる
3. 花育活動の認知度をあげ興味のある学生、父兄に花育に積極的に携わってもらう

【取り組み内容】

- 対象者・人数：幼稚園年長児 5クラス 合計138名
- 所要時間：90分
- 対象場所：幼稚園
- 指導者：講師1名、アシスタント各クラス1名（5クラス5名）

【幼稚園 クリスマスのフラワーアレンジメント作り】

■ 資材

- ・①吸水性スポンジ（高校生が成形）
- ・②ラッピング資材（高校生がカット）
- ・③オーナメント（高校生が作成）
- ・④リボン（高校生がカット）
- ・名前シール（園で用意）
- ・持ち帰り用の袋



～特別支援学校高等部の生徒が資材の準備に協力～



飾りに使う部材作り



ラッピング資材を丁寧にカット

特別支援学校中等部で花育活動を体験した生徒達が高等部に進学し、高等部の作業実習の中で花育で使用する資材づくりに協力してくれた。

■ 花材

- ・トルコギキョウ
- ・スプレーカーネーション
- ・カスミソウ
- ・レザーファン
- ・マツボックリ（ピック付）
- ・小枝

■ 活動内容（指導内容）

1. 三つの約束ごと

①園児に話を聞いてほしいときの合図（手拍子）

「先生が、手拍子を始めたら作業を止めて、手拍子を返し全員の手拍子が揃ったら、お話をしますので、静かに聞いてください。」

（先生に協力してもらい手本を見た後、園児が実際にやってみる）



②園児が質問がある時、困った時の合図（手をあげる）

わからないことがあったら、その場で黙って手をあげて知らせる。

手のあがった順に、近くにいる講師アシスタントが対応する。

③花は生きているので大切に扱うこと。

2. 植物の特徴を意識しながらアレンジメントをつくる

園でフラワーアレンジメントを行うのは初めての試みであったため吸水性スポンジは、事前に吸水させて容器にセットをしてラッピングしたものを用意した。

容器に名前シールを貼る。



①花の香りを嗅いでみる

テーブルに置かれたレザーファンとカスミソウを手にとり香りをかいでみる。

各テーブルから、香りの感想が聞こえてきたらどんな香りがしたかを質問してみる。

この後、レザーファンを吸水性スポンジの4隅にいける。

②茎の切り方

次に、ハサミの使い方を説明して茎をハサミで切る。

園で使用している各自の工作用ハサミを使用する。

切花用のハサミを使用することもあるが、今回は年齢を考え安全面を優先して工作用のハサミを使用した。

花の茎が折れてしまった場合には、短くなった茎をおさえる手の位置に気を付けて、手を切らないように十分注意する。



すべての花を切りそろえた後、大きくて自分の気に入った花一輪を選び手に取る。

③花の正面を探す

花の茎をやさしく持ちゆっくりと回し花が一番きれいに見える正面（顔）を探す。



④花を活ける

花の正面を意識しながら、自分のアイデアで活ける。



- ⑤質問があるときは、ルールを守り手を上げて
知らせてくれた。
お話を聞いてほしい時のルールもしっかり
守ってくれた。



⑥作品の仕上げ

吸水性スポンジが見えているところに、レザーファンや
カスミソウなどを挿してうめる。



⑦管理方法の説明・片付け

完成したらテーブルの上を片付ける。
この後、水やりなど家での管理について説明。
全員で記念撮影。
ご挨拶をして解散。



■ 指導のポイント

- ・子供の自主性を大切にし、花育が楽しい時間であるように心がけている。
- ・簡単な短い言葉で説明する。
- ・注意をするときには、特に言葉に気を付けて、その場の雰囲気壊さないようにする。

- ・できた作品をどのようにしたいか意識させるようなラッピングとした。
(今回はお母さんにプレゼントする声がほとんどでした)
- ・吸水性スポンジに目安となる補助線をつけて花を挿しやすくした。
- ・スプレータイプの花材を使用し、花が破損した場合に予備を渡せるようにしている。

■ 児童・生徒に関心を持ってもらえるように工夫している点

- ・お散歩しているときにも見られるような身近にある木の実や枝を使用している。
- ・できるかぎり個々の花材と作品に手を触れず、茎がぐらぐらしている時やお花が混み合いすぎているなど、手直しが必要と思われるときに、園児が気づいているかどうかの問いかけをしている。技術的に難しい場合は手伝うようにしている。
- ・できるようになったことは、その場で誉めるようにしている。

■ 経費 クリスマスのフラワーアレンジメント

- ・1人当たり資材代 300円～500円

※花材は、株式会社するが花き卸売市場から提供

■ これまでの成果

〈高校生〉

- ・中学生の時に体験した花育活動を、高校生となってから幼稚園での花育活動の資材準備という形で生かすことができた。

〈幼稚園児〉

- ・園や学校の先生が花育に興味を持ち、実践してくれるようになった。

■ 参加者からの感想（児童、生徒、保護者）

学校法人第三静岡学園 静岡学園幼稚園 園長 杉谷法子先生

- ・いつもは落ち着いた子がとても真剣な表情で丁寧に生けていました。
 - ・「お母さん喜ぶね」、「早く家に帰って見せたい」と言っていました。
 - ・「お母さん、びっくりしてたよ」と次の日たくさんの子から報告がありました。
 - ・慎重に花を扱っている子が多かったです。
 - ・「株式会社するが花き卸売市場」様からお花をたくさん提供していただき、クリスマスケーキフラワーアレンジメントをすることができました。1つ1つのお花の感触を小さな手で受け止め、イメージを広げて楽しんで作品を作ることができました。
- このような貴重な経験をさせていただいて本当に感謝の気持ちでいっぱいです。
- 子どもの情緒教育とはとても大切なことと改めて感じました。
- 今後もこの花育を続けていきたいと思います。

■ 今後の課題やその改善方法

花育がイベント時だけでなく、日頃から継続して行われることが課題。

日常に花育を取り入れるために先生の協力は必要不可欠。

- ①園、学校関係の責任者に花育を理解してもらい様々な立場から花育に参加してもらう。
 - ②現場で子供と接している先生方向けに、人数、予算、資材と花材の手配など実際に想定した花育実技講座をひらき、参加した先生が花育を実践できるところまでもっていく。
その際、各校で実施した場合の問題点を一緒に解決していく。
- 上記を実現するには、公共機関の計画的な協力がないと難しい。

■ 参考

静岡市内で花育を実践した 静岡南部特別支援学校 教諭 瀬戸脇正勝 先生からの感想
フラワーアレンジメント作りやコンテナガーデン作りなどを体験しており、作った作品を外
部の方 にプレゼントするなどの活動を行った。

<花育の活動を実践して>

- ・ アレンジした作品に子供達が素敵だという感動が持てたこと。
- ・ 作品に自分なりの意図を持って取り組んでいたこと。
- ・ 上に加えて、ここを切り、ここに置くと自分で決める、これで完成を自分できめていたこと。
- ・ 物怖じせずに、作品作りに取り組んでいたこと。
- ・ 地域のアレンジの先生と作品作りを通してコミュニケーションが取れていたこと。
など感じました。

<花育の成果として>

花の知識をちょっと知ったことが、周りの人や家族に教えることでちょっと鼻高になったこと。それぞれの特性等を知ることで、あまり身近に感じていなかった花や野菜に、興味があつなかつたようです。

多くの花に出会うことで、子どもたちの表現する力も育つように思います。

プレゼント、身近な場所を飾るという行為は、中学生には、役に立つ等の観点からも、将来の仕事として一つとして題材にもなりました。

重度の障がいのある生徒にとっては、本人と相談しながら共にやるのですが、さわる、見る、匂いを嗅ぐことを通して、活動そのもの、出来上がりを共感できました。ふわふわしているね。綺麗だね、いい匂いだね。素敵に出来たね。と共に楽しめました。

<花育に期待すること>

花育を行っている時、子ども一人一人が褒められます。作品も一つの個性として褒められます。できた作品も、周りの方から、家族から感謝されます。自分自身に自信の持てない子どもたちが増えているように感じるこの頃、自尊感情を育てたり、仲間や家族や地域との縁を深めたりできるものだと感じています。

私たちの学校のように、入院生活を余儀なくされている子供達には、植物に触れる大切な機会でもあります。特に本校では、花等を通して四季を感じることを大切にしています。

花にまつわる仕事は多いように思います。キャリア教育の一環としても可能性の多い分野かなと思います。

